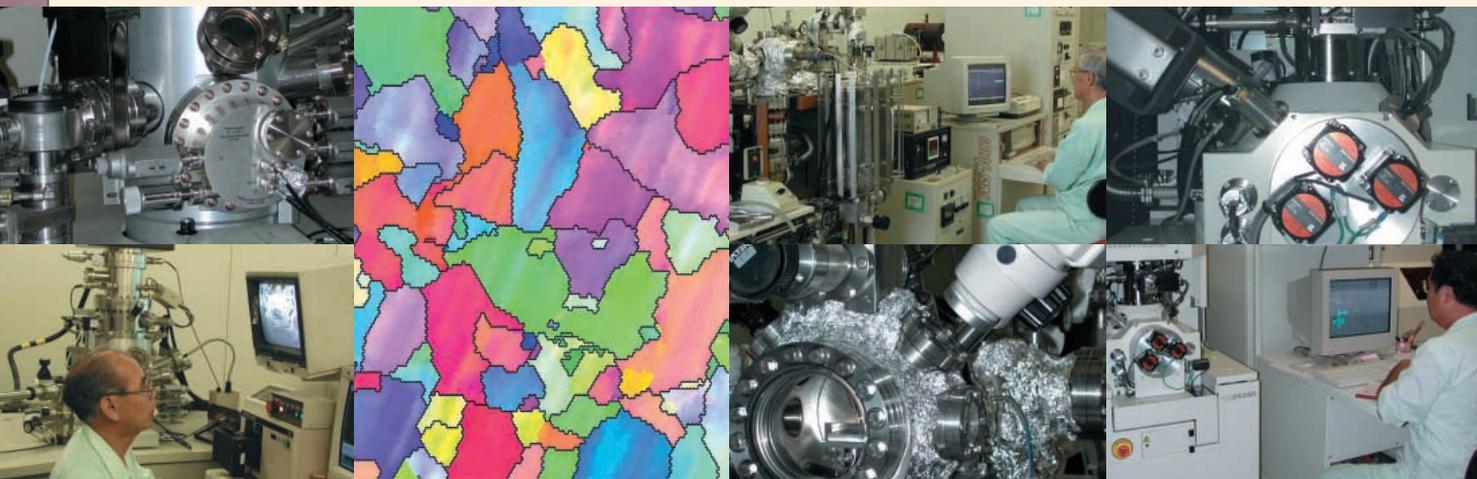
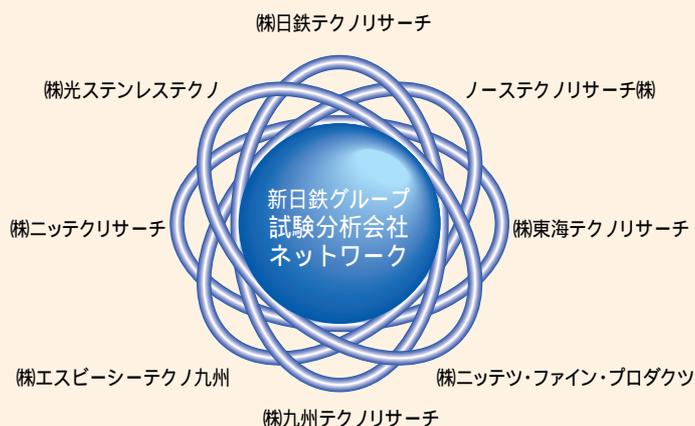


ネットワークでニーズに応える 新日鉄グループ試験分析会社

多品種の高機能製品を製造する製鉄業では、鋼材特性の品質保証や品質安定化のための試験分析が不可欠だ。近年では、ISOの普及やPL法の制定によって、鋼材にもより厳しい品質保証が求められており、試験分析の果たす役割は大きくなっている。

新日鉄各製鉄所や研究開発部門の試験分析部門が分社した試験分析会社は、当社製鉄事業のサポートはもちろんのこと、その有する高度な技術を元に、地域を始めとする社外からの多様なニーズに応えるため、相互連携ネットワークを図りながら、事業展開を強化している。

今号では新日鉄グループ試験分析会社のネットワークを紹介する。



鋼材の品質保証に不可欠、あらゆる産業で必要とされる重要な技術

鋼材特性や品質を決定する試験分析の対象分野は「原料試験」(鉄鉱石・コークスの受け入れ検査、高炉・原料・焼結工場の工程管理用原料試験など)「製品試験」(半製品および製品の品質検査・操業支援・品質保証)「研究開発支援」の3つに大別できる。「原料試験」では原燃料受



技術総括部品質保証企画グループリーダー
大橋 守

入れ時の検査値が多額の支払いの前提となり「製品試験」では試験分析で得られた数値そのものが品質保証となることから重要だ。「研究開発支援」は、溶解・圧延実験をはじめ、プロセス技術のシミュレーションなど、製鉄プロセスにおける新技術開発の指標となる数値やデータを導き出し、サポートするという重要な役割を追う。

新日鉄が各製鉄所の試験分析部門を分社独立させてきた戦略的意味合いについて、技術総括部品質保証企画グループリーダー大橋守は次のように説明する。

「試験分析は鉄鋼業において非常に重要な役割を担っています。その独自性と専門性を維持し、さらに高めていくためには、独自の裁量で立案・実行していく体制を構築することが重要であり、試験分析部門の分社化が進みました」

試験分析は高度な技術を必要とする業務だが、他のすべての産業分野でも必要とされる重要な技術だ。分離独立した試験分析会社は、現在さらにグループ試験分析会社の連携を深める取り組みを開始している。

「8社全体としての試験分析に関する会議に、私も参加しています。また、当社主催で各社の技術者と一緒に『分析技術分科会』と『試験技術分科会』を定期的に開催し、技術の検討や全社標準の維持などを実施しています。最近ではISO規格とJIS規格の整合化により、試験の規格が頻繁に改訂されます。そのような場でも、フェイス・トゥ・フェイスのコミュニケーションとITの活用により、情報が確実かつ迅速に伝わる体制を整えています」(大橋)

試験分析会社8社には、業種を問わない幅広い技術力を持った会社や、材料・構造評価や環境測定分析の分野で優れた技術を持つ会社など、それぞれの強みと独自性

がある。だからこそ、互いに補完し合うことには大きな意味がある。

具体的な連携効果に“設備の効率的活用”が挙げられる。試験分析には高性能な機器が必要なため、多額の設備投資が必要とされるが、8社の連携で設備投資を抑えながらグループ全体の営業力を活用することができる。今後の課題は、試験分析という特殊技術分野における「技術伝承」だと大橋は言う。

「試験分析技術は、法規制や規格、社会ニーズの変化などに合わせて常に刷新していく必要があります。各社が新しい試験技術や分析方法の導入・開発に注力している中、人材教育などを通じた『技術伝承』が重要だと考えています。新日鉄グループ全体で、各社それぞれが蓄積した技術や技能を融合させ、体系化しそのレベルアップを図ることが今後のテーマです」

基本となる材料・構造物の試験・分析・解析事業

「見る」「はかる」「考える」 鉄の経験と知識が事業の源泉

材料や構造物の試験・評価・解析には、3つの分野がある。化学成分分析や機械的性質、金属組織、線膨張係数などJISで定められた一般的な試験、破壊靱性、残留応力、疲労試験など、製品としての実用性能を評価する特殊試験、構造材料の破損解析、安全性を評価する診断解析などである。

低成長期において、破損・診断解析ニーズが高まっていると㈱九州テクニクス TACセンター 材料評価グループ部長丸山和士は指摘する。

「現代はリサイクルとメンテナンスを重視する時代です。製造業は、破損・診断解析で各設備の疲労、腐食、磨耗の進行状況を正確・迅速に把握し、適切な対応をとることでメンテナンスの効率化や設備投資の抑制を志向しています」

メンテナンス業務を標準化し、ISOを取得する動きもあり、欠陥計測技術やエンジニアの資格制度もできつつある。またPL法の施行後、企業の製造者責任が重くなってきたことも、破



㈱九州テクニクス
TACセンター材料評価グループ
部長 丸山 和士

損・診断解析ニーズを高めている理由だ。

破損・診断解析の目的は欠陥を見つけて修復することだけではない。真の意義は、破損原因の確定がさらに質の高いモノづくりを実現することだ。

「壊れ方を知らないと、短命な工業製品をつくってしまいます。応力集中が起こりやすい形状に設計してしまったり、使用環境に十分耐えられない材料を選択してしまう可能性があるからです。破損は疲労、腐食、磨耗の3つが主要因ですが、実際の破損を解析し原因を把握して、3つの要因に関するデータを蓄積し新たな設計に活用することで、以後、高品質で安全性が高い製品や構造物を



㈱九州テクニクスのポスター「エコビジネスを育てます」

つくることができます」(丸山)。

また、材料や構造物が通常の使用状態で、どの程度の期間使用できるのかを判断する「寿命評価」も、破損・診断解析の重要な役割だ。

「壊れることを前提につくられているケースもあります。そこで重要になるのが“寿命評価”です。疲労き裂の進展、クリープ強度、腐食減量などを工学的に検証する手法を確立しており、製品や構造物に加わる負荷を分析する力学的視点と、材料そのものの性質を考える治金的視点の両方からアプローチしています」と丸山は続ける。

破損・診断解析では、「見る」「はかる」「考察する」という過程を経て、破損原因を特定して改善案を提案する。新日鉄グループの強みは何だろう。

第一に、破損の外観から原因を特定し、解析指針をたてる経験と知識だと丸山は語る。「破損解析で大切なのは、“見る”こと。洞察力を働かせて破損の原因を予測し解析指針をたてる最初の仕事ですが、経験を要求される難しい仕事です。当社には鉄の研究で培ったノウハウと優れた技術力があります」

二番目にあげられるのが、迅速に対応できる設備力だ。「鉄の研究で培った幅広い技術力と充実した研究設備が武器です。破面解析にはSEM(走査型電子顕微鏡)、物質の同定にはEPMA(電子線を試料に照射してミクロン領域の元素分析を行う)、組成解析にはX線回折など、新日鉄の研究設備を活用しています」(丸山)。

小さなものから大きなものまで 地域密着と全国展開の両輪で

新日鉄グループ各社で扱う材料は、金属(鋼、鋳鉄、アルミ、銅)をはじめ、プラスチック、コンクリート、セラミックス、木材とさまざま。これまで依頼された解析も機械・構造部品から精密部品まで多岐にわたり、破損・診断解析は全産業分野で必要とされている。

「シャフトや歯車、ボルトなどの機械部品をはじめ、送電鉄塔や燃料タンクの溶接部、高炉設備などの構造部材、ICチップや樹脂歯車といった精密部品などの破損について、解析の依頼を受けます。小さな破損品が多いのですが、技術力が認められ信頼を得ると、その後も継続して依頼を受けます」(丸山)。

(株)九州テクノリサーチは、製鉄所設備の劣化診断をはじめ、若戸大橋の橋脚検査、帆柱ケーブルの健全性評価、河内貯水池めがね橋の劣化診断などの地域に根ざした案件に加え、製鉄遺跡の調査を市町村の教育部門から依頼されるなど、地域の文化活動にも貢献している。

「当社も含め、新日鉄グループの試験分析会社は、各地域に密着した“町医者”のような役割を果たしてきました。今後連携をさらに強化することで、さまざまな試験分析技術を組み合わせた付加価値の高いサービスが提供できると確信しています」(丸山)。

幅広い分野で役に立つ分析技術・高度解析技術

身近にある、 各種分析技術・高度解析技術への ニーズ

材料・構造物の試験・評価・解析と環境事業のベースとなる各種の分析技術・高度解析技術。グループ各社では、長年新日鉄が培ってきた研究成果をベースに、鉄鋼材料をはじめ、有機・高分子、セラミックスといった各種先進材料や、プラスチック、塗料・油などさまざまな材料・プロセスの高度解析を中心に事業展開している。

事業内容は多岐にわたる。研究開発の一部の実験・解析の代行依頼、製品トラブル・クレーム対応における第三者証明の発行、環境負荷に配慮した資材調達活動(グ

リーン調達)における有機物や重金属製品の分析、輸出・輸入時の品質保証などがある。

「分析依頼の多くは日常生活に密着しています。金属容器の腐食分析など、身近でさまざまな分析依頼の集積によって事業が成り立っています。最近では食品異物混入のクレームに対する第三者証明の分析依頼が多いですね。異物の半分以上は歯の詰め物ですが、お陰で詰め物や歯科治療器具の樹脂や金属などについて専門書が書けるほど詳しくなりました(笑)」(株)新日鉄テクノリサーチ解析センター所長 鈴木堅市

(株)新日鉄テクノリサーチ
解析センター
所長 鈴木 堅市



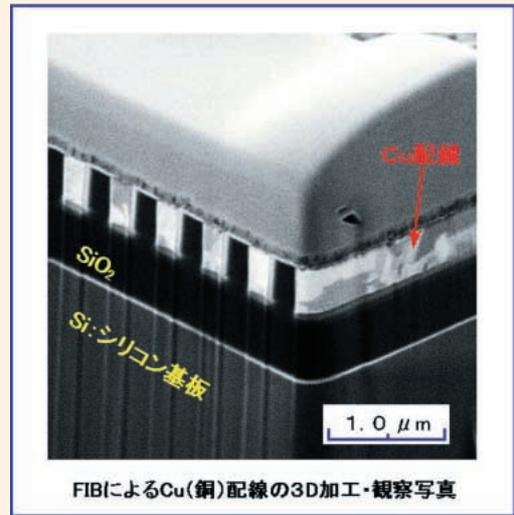
損害保険会社からの依頼では、自動車事故の衝突部分の塗膜を分析し、事故か故意によるものかを判定する。パチンコ玉の材料解析、大学の卒業研究や研究者のレポートに掲載するための分析を行うこともあると言う。

「当社の基本は人材が持つ知識と化学分析力。その強みは、鉄鋼業界を代表する化学分析・解析の専門家が多いことで、材料・プロセス診断の“総合技術コンサルタント”と呼ばれるほどです」(鈴木)

新日鉄が複合経営の中で培ってきた新規材料分野の研究実績も大きな財産になっていると鈴木は言う。

「新日鉄は“鉄”に加えて、無機材料や電子材料、各種デバイスの開発などにも取り組んできた歴史があり、当社にはそうした研究開発に携わってきた人材が揃っています。我々はナノレベルの原子一つひとつを観察して原理を解き明かす撮影技術を持っていることに加え、新日鉄で研究開

発に携わっていた技術者の技術とノウハウを武器に、電子材料の領域でも、高い競争力を誇っています」(鈴木)



環境事業

鉄で培った精度管理をベースに環境事業に取り組む

各種材料・構造物の評価、分析・解析と共に試験分析事業の軸として発展してきた環境事業。「環境事業のポイントは“変化の先取りと迅速な対応”にある」と㈱ニッテクリサーチ取締役環境事業部長の大平俊朗は語る。一連の業務は法律で定められた環境規制値を基準とするため、関連法改正などを先取りした取り組みが不可欠。事前の情報収集に基づく設備・人材などの事業戦略を早急に決断して実行しなければならない。

環境計量証明事業は、大気・水質・土壌中の金属や微量有機物の濃度測定を行い、環境基準への適合度合や各種環境法規制にのっとった排出基準を事業者が満たしているかを証明する。また、騒音規制法や振動規制法に基づき、自動車の騒音や建設作業の振動などの音圧レベルや振動加速度レベルの測定も行っている。

作業環境測定事業は、金属などの粉塵が飛散する作業場や特定化学物質を取り扱う作業場などで、労働者の健

康が損なわれる可能性がないか、労働安全衛生法に基づき測定を行う。このほか、シックハウス症候群(注1)の原因物質の測定、ISO14001取得支援などのコンサルティング業務、環境アセスメント業務、各種試験分析業務、加熱炉などの省エネ設備や集塵装置の開発、アユ・スト



低濃度ダイオキシン前処理作業(クリーンルーム)

注1) シックハウス症候群:

新築・改装後の住宅やビルにおいて、ホルムアルデヒドなどの化学物質を放散する建材・内装材の使用等により、居住者に起こるさまざまな健康被害の総称。厚生労働省から室内空気汚染に係るガイドラインおよび指針値が示されるほか、文部科学省が「学校環境衛生の基準」を改訂し、検査項目を追加している。

ーンなどの生態環境改善およびNEDO技術開発機構（注2）の環境関連プロジェクトへの参画など、幅広い領域で事業展開している。

環境事業における 試験分析会社の強み

試験分析会社の環境事業は、1976年に広畑製鉄所の環境測定部門を分社化した姫路環境技術センター（現 ㈱ニッテクリサーチ）を皮切りに、1978年の八幡製鉄所の環境測定部門を分社化した九州環境技術センター（現 ㈱九州テクノリサーチ）などの新しい分析会社が順次設立された。1990年に広畑製鉄所の試験分析部門などを統合した㈱ニッテクリサーチは、焼却炉のダイオキシン類測定



㈱ニッテクリサーチ
取締役環境事業部長
大平 俊朗

分析などを早期に事業化し、ISO / IECガイド25の認定を日本で初めて取得した。そうした実績と技術力をベースに、環境省の臭素系ダイオキシン測定マニュアル作成にも関わってきた。

その強みは、“精度管理における高い信頼性”だ。

「新日鉄時代にISO9001やQS9000などの徹底した品質管理を実施してきた人材が当社の品質保証に携わっているため、精度管理の資格・認証取得に強みを発揮しました。当社では、有害物質分析において試料の予測濃度に合わせてクリーンルームを含めた4段階の試験室を整備しており、濃度測定における精度管理に関する取り組みも他社に一步先んじたものを目指しています」（大平）

また、環境事業は実績と社会的信用が重視される分野だ。高度な技術力に加えて、幅広い人的交流によるネットワークの構築が不可欠だと大平は言う。

「休日なども随時稼働できる体制をとってきめ細かい対応を心がけています。今後も地道な活動によって実績を重ね、社会的信用を醸成していきたいと思っています」と大平は締めくくった。

全国のネットワークと確かな技術で ソリューションを提供

現在、新日鉄グループの試験分析会社は、それぞれの得意分野、保有設備を活かした密接な交流が行われている。今後は、設備投資の効率化と人材育成等を共通の目標とし、一層の連携を強化する準備が進んでいると㈱日鉄テクノリサーチ常務の中西澗は語る。

「地域に根ざして育ってきた各試験分析会社は、一つひとつは大きくありませんが、新日鉄グループ全体では1,800人規模の技術者集団です。今後はさらに各社の若手技術者を育成し、総合的な技術集団として新日鉄のモノづくりや営業活動をバックアップするとともに、お客様のニーズにあらゆる角度からお応えしたいと思っています」

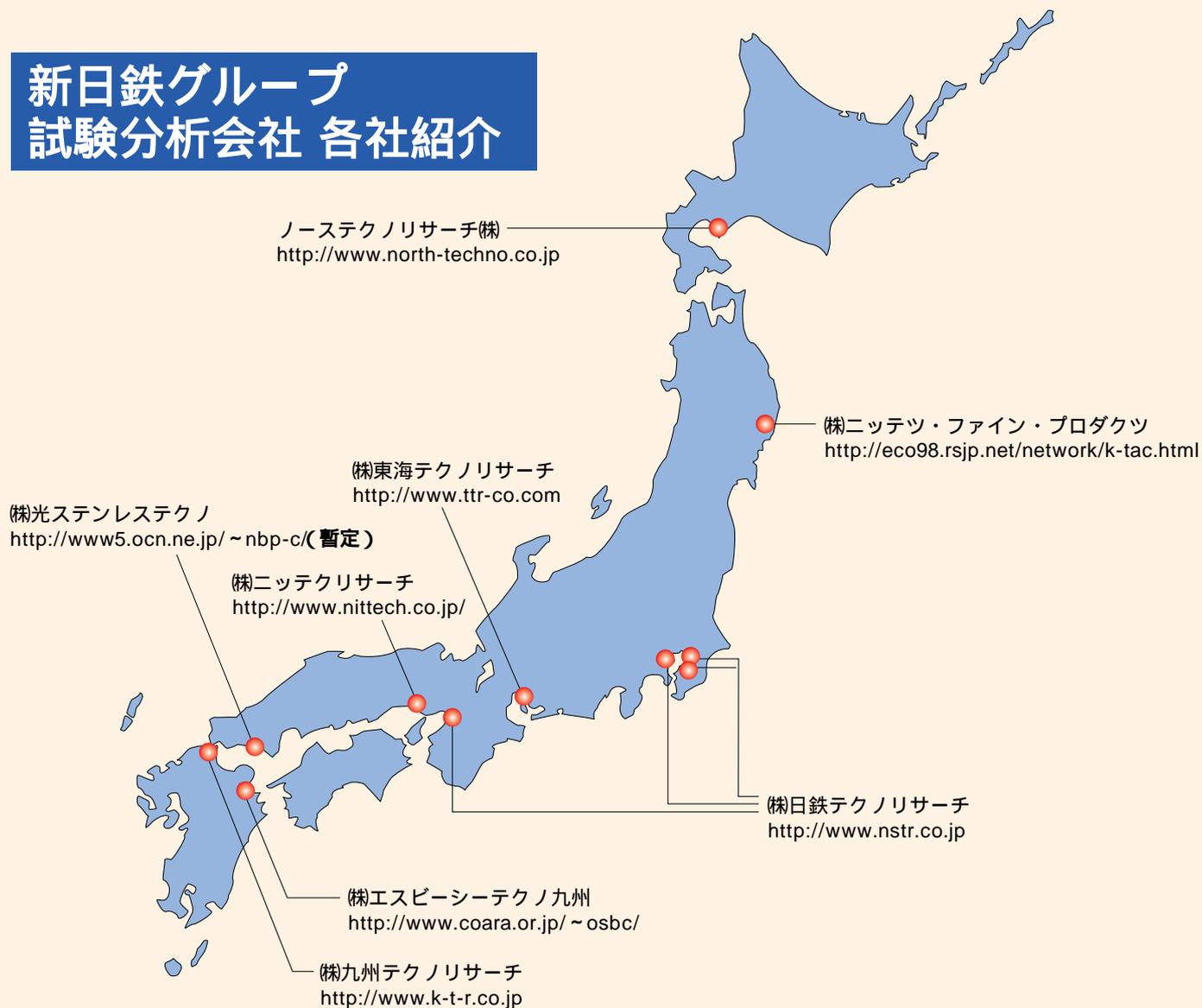
例えば、遠距離地での長期調査が必要なプロジェクトで

は、各地で事業展開する試験分析会社と連携して効率的な事業運営を図っている。今後は、新日鉄グループ全体のネットワークを活用することが今後の飛躍につながると、中西は強調する。新日鉄エンジニアリング事業本部の環境・水ソリューション事業部や、グループ会社の環境エンジニアリング㈱などが推進する環境事業との協業が期待されるからだ。

「新日鉄グループ全体のネットワークで、保有技術・ノウハウをフルに活かし、多角的な事業展開を推進していきます。確かな技術でお客様にさらなるソリューションを提供していきますので、まずは最寄りの試験分析会社（P14参照）までご相談下さい」（中西）

注2) NEDO技術開発機構：10月1日より独立行政法人となった新エネルギー・産業技術総合開発機構の新しい略称

新日鉄グループ 試験分析会社 各社紹介



最寄りのご相談窓口

会社名	(事業所)	従業員数	所在地	電話	FAX
ノーステクノリサーチ(株)		190名	050-0087 室蘭市仲町12番地 (室蘭製鉄所構内)	0143 (47) 2535	0143 (47) 2352
(株)ニッテツ・ファイン・プロダクツ		43	026-8567 釜石市鈴子町23番15号	0193 (22) 2141	0193 (22) 5989
(株)日鉄テクノリサーチ	神奈川(本社)	602	213-0012 川崎市高津区坂戸3-2-1 KSP A101	044 (814) 3460	044 (814) 3461
	かずさ		293-0011 富津市新富20-1 (総合技術センター内)	0439 (80) 2691	0439 (80) 2767
	関西		590-0901 堺市築港八幡町1 (堺製鉄所構内)	0722 (33) 1180	0722 (33) 1182
	君津		299-1141 君津市君津1 (君津製鉄所構内)	0439 (50) 2196	0439 (52) 0458
(株)東海テクノリサーチ		217	476-8686 東海市東海町五丁目3番地 (名古屋製鉄所構内)	052 (603) 7317	052 (603) 7272
(株)ニッテクリサーチ		227	671-1116 姫路市広畑区正門通四丁目10番地	0792 (36) 6665	0792 (39) 1953
(株)光ステンレステクノ(10月1日改称)		62	743-8510 光市大字島田3434 (光製鉄所構内)	0833 (71) 5030	0833 (71) 5157
(株)九州テクノリサーチ		281	804-0001 北九州市戸畑区飛幡2番1号	093 (872) 5408	093 (872) 5368
(株)エスピーシーテクノ九州		188	870-0902 大分市大字西ノ洲1番地 (大分製鉄所構内)	097 (552) 4125	097 (553) 2354

(注) 試験分析関連従業員(9月1日現在)

高度な試験分析技術を提供する新日鉄グループ各社

「地球環境時代に適応した技術の提供」

ノーステクノロジー(株) (室蘭市)

ノーステクノロジー(株)は、いち早く設備部門のプロセス技術部隊を取り込み、分析・試験分野との相乗効果を発揮しながら、環境・エネルギー分野の開発、エンジニアリング、ISO取得支援コンサルティングにも取り組んでいます。近年社会問題になっているダイオキシンの分析とその抑制技術の提供や熱・環境設備に関する測定結果からの診断および改善等の提案も積極的に行っています。

【トピックス】

室蘭製鉄所の原料荷揚げ用のアンローダ更新に際し、ファンやバグフィルターを必要としない無動力集塵フード(写真上)を提案し、採用された結果、設備費、電力費、メンテナンス費の大幅削減に貢献しています。その後、重工、セメント、非鉄精錬等のお客様から多数お問い合わせを頂き、建設中のものを含め合計13機のアンローダで採用されています。本技術をより規模の小さな設備の集塵対策にも適用したいとのニーズを受け、フレキシブルコンテナバグ解袋時の集塵対策(写真下)等にもメニューを拡大し、鉄鋼・非鉄精錬原料受入れ、廃トナーリサイクル等の分野でご利用いただいています。



無動力集塵フードを備えたアンローダホッパー
(鉄鉱石荷揚げ風景)



無動力集塵フードを備えたフレキシブルコンテナ
バグ解袋機(性能確認実験風景)

「ヒトの視点と科学の視力」

(株)日鉄テクノロジー (川崎市、富津市、堺市、君津市)

(株)日鉄テクノロジーは、新日鉄の研究開発部門において長年にわたって培われてきた鉄鋼材料をはじめ各種先進材料に関する高度の解析評価技術を、マテリアル・サイエンスの時代に活用すべく、1985年に設立されました。

【トピックス】

今年7月1日より新日鉄総合技術センターの試験分析機能を全面的に移管し、新しくテクニカルサービス事業部を発足しました。今後、研究者、エンジニアおよびテクニカルサービス事業部の強力なサポートで、迅速かつ高度な業務を推進していきます。

この試験実験、設備管理機能は新日鉄の研究開発・技術開発を長年支えてきた高度な技能・技術で、鉄鋼メーカートップとしての実力を支えています。今回の業務移管により新日鉄グループの研究開発力がさらに強化され、お客様のお役に立てると同時に、お客様にもこの機能を利用していただけようになりました。是非積極的に活用していただくことを期待しています。

(株)日鉄テクノロジーのエレクトロニクス分野でのナノテクノロジー技術の一端を紹介しましょう。

「琵琶湖に落ちた100円玉を探す!?」。最近ナノテクノロジーという文字をよく目にしますが、最先端分野では集積回路(LSI)を琵琶湖の面積に喩えると、どこかに沈んでいる100円玉の領域を探すに等しい解析が行われています。様々な手法を使い「琵琶湖で言えばおよそ20m四方まで」追い込み、そこからはナノレベルで制御できる収束イオンビーム(FIB)でサンプルを加工し、透過電子顕微鏡(TEM)により内部を透かして観察し100円玉を見つけます。最新鋭のTEMでは厚さ1ミクロンのサンプルでも直接立体的に観察することが可能になり、極微小な領域を探ることができます。ナノレベルでの一種の非破壊検査です。また元素分析についてもわずか1nmの空間分解能で元素イメージ像が取得できます。これを支えているのがFIBによる微細加工技術です。12ページ写真は集積回路で使用する銅配線をFIBで加工・観察した例です。FIBはイオンビームで特定の領域を加工できると同時に観察も行えます。わずか0.3ミクロン弱の細い配線の垂直・水平両方向を加工してから観察したもので銅の結晶粒が鮮明に分かります。



「あらゆる視点と手段でしなやかに問題を解決する」

(株)東海テクノロジー (東海市)

(株)東海テクノロジーは、1996年に新日鉄名古屋製鉄所から分社化し、大規模環境・検査事業や省エネ関連事業を展開しています。東海地方は、大手自動車メーカーを筆頭に環境・省エネ対策に積極的な企業が多数あります。これら企業への省エネ診断・省エネ案件発掘のコンサルタント等を強力に推進中です。

【トピックス】

新日鉄エネルギーエンジニアリング事業部から電力会社のLNG導管埋設工事の測定・検査業務を受注しています。主な内容は、ガス導管(60cm)敷設後の耐圧・気密検査におけるガス導管内充填ガス(窒素、ヘリウム、ハロゲン混合ガス)の連続分析と埋設導管の漏洩有無検査です。また、(社)日本鉄鋼連盟から名古屋製鉄所内にパイロット試験設備のある次世代コークス製造技術(SCOPE21プロセス)試験に関する測定・検査業務を受注しています。NEDO技術開発機構の省エネアドバイザー事業も実施しており、省エネ専門家として大企業の省エネ診断を実施しています。



「子供たちに自慢できる21世紀を」

(株)ニツテクリサーチ

(姫路市)



(株)ニツテクリサーチは、2001年12月に創業25周年を経過しました。試験所認定(ISO/IEC17025)を環境分野(ダイオキシン類)と機械・物理試験分野および科学試験分野の3分野で取得しており、また、ダイオキシン類測定についても環境省受注資格を取得するなど、公的に認められた信頼性の高い分析機関です。創業以来、常に新たな技術開発に挑戦し『なんでもできるニツテク』を名実ともに確立してきました。世の中が循環型社会を指向する中で、環境分析、材料分析の社会的ニーズは益々大きくなっており、現在、社内中堅社員によるビジョン検討委員会を設置し、めざすべき社の姿の具体化を検討しています。

【トピックス】

2003年2月に施行された土壌汚染対策法に基づく土壌汚染状況調査について、いち早く体制を整え本年4月営業を開始しました。同時に、新日鉄環境・水ソリューション事業部と連携をとり、調査から浄化修復、事後のモニタリングまでの一貫した業務処理体制も整えています。



土壌調査コア採取機

「モノづくり・環境・高度情報化 - 21 - 」

(株)九州テクノリサーチ

(北九州市)

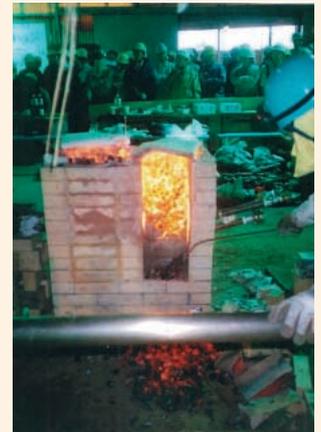


(株)九州テクノリサーチは、早くから環境コンサルティング業務に力を入れ、環境アセスメント、環境関連の各種調査を数多く手掛けてきました。

【トピックス】

2002年5月には、北九州市若松区の響灘地区の北九州市エコタウンセンター内にエコタウン事務所「ひびきエコソリューションズ」を開設し、事業展開を図っています。主な事業内容は、ゼロ・エミッション、グリーン化に関するコンサルティング 環境分野におけるホームページ運営管理などのITの活用および協業チームの支援 ケーススタディによる環境ビジネスノウハウの提供 環境ビジネスの国際化支援 環境関連調査及び見本市等各種企画支援です。

また、九州テクノリサーチでは、様々な遺跡の調査依頼を受けています。映画「もののけ姫」でも昔の大掛かりな「鉄づくり」の様子が出てきますが、実際の製鉄遺跡でも大規模な所では数10トンに及ぶ鉄滓等が廃棄され、今でも残っています。当社では、各地で再現される「たたら製鉄」や鉄滓等の解体・分析調査で得た知見を、昔の鉄づくりの技術的(冶金的な反応論、組織学)検証へ反映し、鉄の伝来や原料・方式の違い等を探るお手伝いをしています。写真は年末に行われた八幡での「たたら製鉄」の様態です。



八幡での「たたら製鉄」の様態

「地球環境とお客様の信頼を大切に」

(株)エスピーシーテクノ九州

(大分市)



(株)エスピーシーテクノ九州(SBC)は、1995年に大分製鉄所から分社化し、発足しました。現在も製鉄所各工程の鉄づくりに欠かせない専門的な試験分析を行い、最終製品の品質保証上極めて重要な「数値データ」を出すことで鉄鋼製造を支えるという責務を担っています。今後も、鉄づくりを通じて専門技術を高めるとともに、全員が「豊後技術屋集団」の強い意識のもとで地元に着目した業務を展開していきます。

【トピックス】

30年にわたる研究支援業務を通じて培った材料解析技術を元に、お客様のニーズに合わせて、標準化されていない試験方法を工夫し結果を出すことで、お客様からもSBCに頼めば何とかかなという評価を受けています。また、環境問題に対する地域・行政の関心が高まる中、大分製鉄所火力発電所建設の環境アセスメントを通じ、施主・分析の両者の業務を経験したノウハウを蓄積しており、コンサルタントとして計画、調査の分野で業務拡大に力を注いでいます。さらに、鉄鋼業の中で培った環境保全のノウハウを生かし、単に分析するだけでなく、対策面のアドバイスにも力を入れ、お客様からの信頼を得ています。1998年には化学分析の経験を生かしてダイオキシン分析を始め、現在は測定装置2台を保有し、九州でトップの実績を上げています。ユニークなところでは、日本有数の湯量を誇る別府温泉を控えており、温泉水の登録分析業者として県の施策にも積極的に協力しています。